

令和 7 年度 共同生活援助事業所ぼっち村の取組 (令和 7 年度の重点課題)

令和 6 年度は定員 30 名、現員 30 名でスタートしましたが、約 8 か月間定員割れの期間があり収益的には厳しい状況でした。現在は定員を満たしており、これを維持することがグループホームの事業を継続していく上で必要不可欠です。利用者の定員割れが生じたときの対応、職員の確保、建物・設備の老朽化対策等、課題は山積しており、今後も厳しい状況は続くと思われます。

(1) 職員の配置等

令和 7 年度は昨年同様、グループホーム事業の継続に向けての安定した運営体制について更なる検証が必要です。岩田にあるホームの定員数を含め、いくつかのシミュレーション等をし、現在の状態が最善であるかを検証します。休日の利用者支援については、令和 6 年度、相対的に見て自立度が高い市内の 2 ホームについて、世話人の配置をほぼなくした結果、大きな混乱はなく進んでいますが、経営面を考慮すると、職員配置の更なる工夫や調整を検討する必要があります。服薬支援が必要であったり、休日に行けない利用者への支援をどのように工夫するか等の検討をしつつ、適切なサービス水準を考慮した最適な職員配置を目指します。

(2) 人員の確保

令和 7 年 4 月から適用予定の世話人及びパートタイム職員の「継続雇用の取扱い（内規）」により、高齢化率の高いぼっち村全体の職員の確保が大きな課題となることが予測されます。人材以前の人員確保が困難な状況の中、厳しい状況が続くと思われますが、他法人の成功例などを参考にしながら課題解決に取り組みます。

(3) 地域連携推進会議

令和 7 年度 4 月から地域連携推進会議の設置が義務化されます。利用者がその人らしく安心して暮らすことができるよう、地域との連携を推進し、その取り組みを通してオープンな事業運営を目指します。

(4) ホーム建物・設備の老朽化対応

ホームの建物や設備の維持管理も重要なことです。ぼっち村 6 ホームの内、4 ホームは当法人の財産であると同時に、利用者にとって大切な生活の場です。修繕やメンテナンスが必要な際は、都度、優先度やコスト面を考慮しつつ早急に対応することで、最小限の経費で抑えることができると同時に、利用者の生活環境を守ることに繋がります。日頃から建物や設備の点検を通じて適時の対応を行います。

◆その他

・地域との接点

・非常災害時の対応及び日頃の備え

・利用者のこと

・